

平成 24 年度ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (太平洋) について

当研究所では天然ヒラメの稚魚分布密度調査を平成11年から行っており、平成24年は7月31日、8月21日、9月21日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いて太平洋の三沢市沖8点で行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると3～55尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました（表1）。採集したヒラメの全長組成は7月31日には20～30mm台、8月21日には水深5mでは50～70mm台、水深10mでは50～60mm台、9月21日には水深5mでは110～130mm台、水深10mでは60～70mm台が主体でした（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成24年は50と高い水準になりました（図3）。これまでの調査結果を見ると、太平洋南部では着底指数が高かった年の翌年に1歳魚の漁獲尾数が増える傾向があることから、平成25年の1歳魚の漁獲は前年を上回ると考えられます。

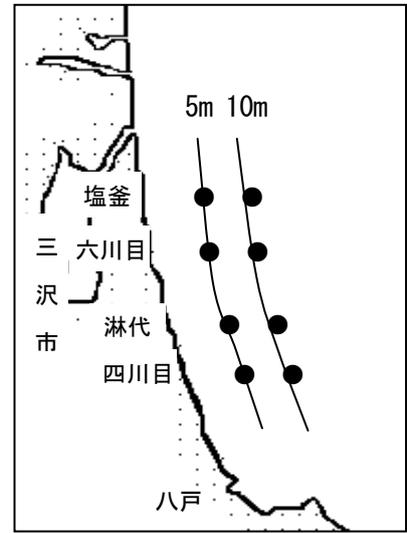


図 1 調査地点

表 1 ヒラメ分布密度

調査月日/調査点	太平洋								(尾/1,000m <sup>2</sup> )	
	水深 5m				水深 10m				5m 平均	10m 平均
	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜		
7月31日	51	30	40	52	14	3	11	3	44	8
8月21日	50	55	54	40	19	5	4	7	50	8
9月21日	34	41	6	14	24	22	31	24	24	25

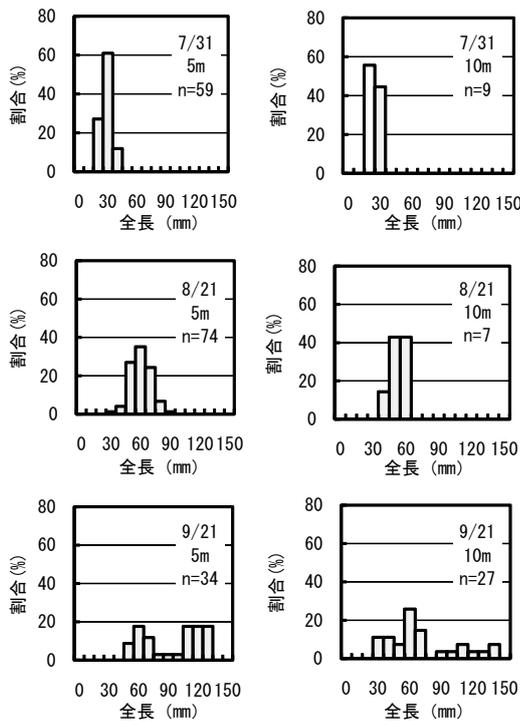


図 2 採集したヒラメの全長組成

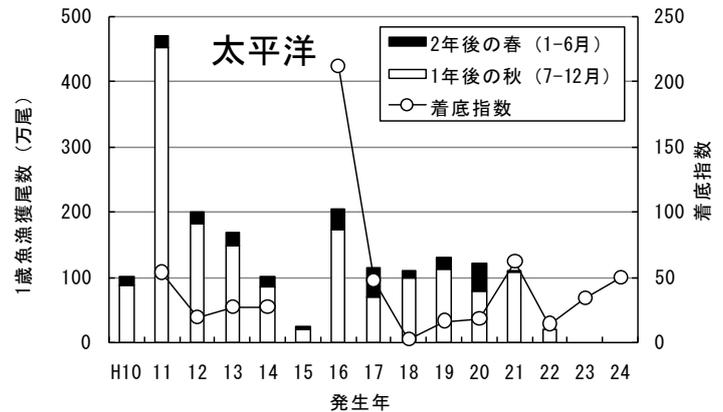


図 3 太平洋のヒラメ着底指数と1歳魚漁獲尾数の推移